

令和7年度 江戸川区立南葛西小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	○進んで学びくひうする子 ○思いやりのある子 ○健康でたくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・児童にとって、学び喜びや楽しさを実感でき、安全・安心に過ごせる学校 ・教職員にとって、使命感と熱意をもち、子供とともに成長できる学校 ・保護者にとって、安心して子供を預け、子供の成長が期待できる学校 ・地域にとって、学校と連携して教育活動を行い、ともに子供を育てる学校
前年度までの本校の現状	成果 ・校内研究を通じた、教員一人一人の授業力向上。 ・地域との連携。 ・要配慮児童への共通理解に基づいた円滑な対応や健全育成を図るための関係機関との連携。	課題 ・南小スタンダードを基にした、学習規律の徹底と共通した授業の展開。(確かな学力の向上) ・体力向上のための記録会・授業展開・休み時間の活用。(健やかな体の育成) ・不登校傾向の児童への対応と関係機関との連携。(共生社会の実現に向けた教育の推進)	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中題」自己(学校)評価(A~D)		「中題」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○児童が「できた」「わかった」「楽しい!!」が実感できることによる知識技能の習得	・問題解決の過程を重視した学習スタイルの徹底 ・学習規律の徹底(南小スタンダードの徹底) ・ドリルパークの活用	・「めあて・まとめについて」教員肯定的評価100% ・児童自己評価肯定的評価90% ・1週間60分の実施	83%	93%	B	・南小スタンダードを全教室で提示し、学習規律の徹底を図っている。毎月の部会で報告し合い、課題を中心に指導継続中である。2学期以降も、子供とともに授業をつくっていくとする。 ・スタディフィークでは、ドリルパークの課題を出し、取り組み状況を確認して行った。 ・教員評価75%、児童評価82.5%	B	学習することが楽しいと実感してほしい。 各取組を継続してほしい。 難しい課題もありますが、目標に向けて取り組んでいます。	B	・「めあて・まとめ」の掲示板を使用し、宿題の仕方を統一できた。 ・教員肯定的評価80%、児童自己評価90% ・南小スタンダードを提示し、教員、児童共に意識して学習に取り組めた。また、毎月の部会報告で課題としてあげた点にはその都度指導をし、改善を図ることができた。 ・ドリルパークの課題取り組みは、スタディフィーク中は達成できた。それ以外の課題取り組みが60分到達できなかった。	A	・できる・わかる楽しさを経験して学ぶ力を身に付けてほしいです。 ・次年度に向けてより効果的な改善をお願いします。 ・楽しく学べるよう、先生方の努力が実ることを願います。 ・全学年での教科担任制の実施や目標を達成するための授業改善など、魅力ある授業づくりの各種取組による成果が広がっている。 ・特に目的意識をもって取り組むことは、何事に対しても大事なことで、「めあて・まとめ」の指導はたいへん良いことだと思います。	教員自己評価が目標値より高いので、より一層の徹底を図るため、南小スタンダードに基づいて、各学年での取組状況の確認、部会での報告を行い、改善を図っていく。
	○主体的に学習に取り組む態度・思考力・判断力・表現力の育成	・校内研究の実施 ・子供の興味関心を高める課題設定	・年間1回以上の研究授業の実施 ・「考えることが好き」児童自己評価90%「問題解決型学習」教員自己評価100%。	87%	83%	B	・校内研究を通して、問題解決の過程を重視する授業づくりを取り組んでいる。全教員が年間1回以上の研究授業を実施する予定である。また、OJTを実施し授業力の向上に努める。 ・教員評価95%、児童評価75%	B	先生方が楽しい授業づくりのために、奮発工夫されていることが伝わってきます。成果が出る途中ではあると思いますが、児童評価が上がるよう取り組んでください。	B	・次年度に向けてより効果的な改善をお願いします。 ・毎回思いますが、児童のために先生方が工夫されていることが分かります。継続してください。 ・問題解決の過程を重視する授業のためには、課題選びが重要だと思う。 ・タブレットを使っての漢字練習は、あまり賛同できません。ノートに書いて覚えてほしいです。	児童自己評価が目標値より低いので、児童が必然的に考えたいような課題を設定する。伝え合うことに重点を置き、表現力を校内研究や日々の授業実践で育成。		
	○読書の更なる充実	・司書教諭との連携及び学校図書館の利用	・クラスで月3回以上の利用 ・児童自己評価「読書が好き」90%	88%	78%	B	・司書の来校日には、毎回情報共有を行っている。 ・読者の読書発表会に向けて、図書館を活用しながら各学年準備を進めている。 ・児童自己評価「読書が好き」では、学校平均3.2点(80%)となり、前年度後期の学校平均3.1点(77.5%)よりは上がっているが、目標は届いていない。	B	子供たちの興味のある事柄を知り、それに関する読書を探やすことも必要ではないでしょうか。月3回の利用が多いとは思えない。よい本が置かれているので、もっと利用できたらと思います。	B	・司書が各学年に学習支援を行えた。読書料をはじめ、その他教科でも図書館活用できた。 ・趣味の貸し出しには、多くの児童が借りて来たり、東葛西図書館の団体貸し出しを利用して、読書する環境を整えたり、すずんて児童自己評価77.5%	司書教諭との連携を強化し、計画的に図書館を利用する。引き続き、図書館の環境や団体貸し出しを有効に、読書料の充実の充実につなげる。 ・子供は読書の読み聞かせが大好きなので、なるべく増やして楽しく本が好きなようになってほしいです。		
体力の向上	○体育授業の充実	・めあてを明確化した体を動かすことが楽しいと思える授業の実施	・教員自己評価「授業向上について」肯定的評価90%、児童自己評価「運動は好きですか」肯定的評価90%	87%	81%	B	・めあてを明確にすることで、児童が「わかった」、「できた」、「楽しい」と感じられる授業計画を図っている。 ・「運動は好きですか。」「児童自己評価は90%である。	A	「運動が好き」児童自己評価90%のことでよいと思います。 目標の達成に向けて、運動することの楽しさを実感できるようにテーマを変えて、考えることに取り組んでほしいと思います。	B	・ワークシートやICTの活用により、めあてを明確化して「できた」「わかった!!」を体験し、児童が「楽しい!!」と感じられる授業を継続している。 ・体育科学習発表会を通して、学習の成果を発表することで、児童の学びに対するめあてが明確化されている。 ・児童自己評価90%	児童自己評価90%の満足感素晴らしい、休み時間を楽しみに校庭に飛び出す姿はうれしい一言です。 ・体育科学習発表会、毎回来しみにしています。		
	○休み時間の運動会への確保・運動月間等の充実	・休み時間の外遊びの奨励 ・なわとび月間、かけあし持久走月間、運動遊びの充実	・教員自己評価「体力向上」、児童自己評価「運動は好きですか。」肯定的評価90%	90%	94%	A	・中休み全校児童が外遊びを実施したり、「南タイム」や「なわとびタイム」、「昼休みの遊具開放」、「体育祭開放」などを実施し、体力向上を図っている。また、体力テスト期間には「体力アップカード」を家庭学習の一環で実施し、児童の体力向上に向けて、家庭との連携を図ることができた。 ・「外遊び」児童自己評価は90%である。 ・「外遊び」児童自己評価は85%である。	A	体力向上に向けての工夫が素晴らしいです。 運動会への確保のために、いろいろなアイデアが思い浮かぶように、「外遊び」80%はもう少しであると感じます。下級生は楽しんでいてのかもしれないね。	B	・中休みの全員外遊びや昼休みの遊具開放、南タイムなど運動会への確保に取り組んでいます。 ・なわとびワークで、新たに「1分間チャレンジ」や「クマチャタイム」などを実施し、運動遊びの充実を図っている。 ・「運動は好きですか。」「児童自己評価は90%である。 ・「外遊び」児童自己評価は85%である。	運動をする機会の確保はできているので、体力テスト前の練習「体力アップカード」や、区になわとびワークの取組を継続させることで、回数の上、体力向上を図る。		
	○生活リズムの向上	・生活リズムワークの実施 ・学年便りで結果の周知と生活リズム向上の呼び掛け	・年3回の確実な実施。	90%	100%	B	・1学期はゴールデンウィーク明けに実施し、児童だけでなく家庭と連携して生活リズム向上を図ることができた。 ・1学期は回収率が80%だったため、2学期以降は100%回収を目指す。	B	家庭の協力が必要だと改めて感じました。これからは家庭との連携を続けてほしい。 2学期以降は100%回収に期待しています。	A	・2学期は夏季休業明けに実施し、回収率は95%に向上した。3学期は100%回収を目指す。 ・年度末に、学校よりを通じて今年度の結果を保護者にお伝えする予定である。	1学期から教員間の共通理解を図り、回収率100%を目指していく。各回の様子を学年便りで保護者へ周知し、生活リズムの向上へつなげる。		
共生社会の推進	○特別支援教育の充実	・特別支援教室巡回指導の充実 ・巡回指導教員、SC、巡回心理士との連携	・週1回担任と通級教員との打ち合わせの実施。 ・特別支援の視点を取り入れた授業の実施。	88%	100%	B	・週1回、担任と特別支援教室の教員が打ち合わせを行い、教室での様子や悩みごとなどを共有している。 ・児童から相談があったときは、SCと担任が連携し、必要があれば外部機関や巡回心理士へつなげている。	B	保護者の方にとって大変難しいと思いますが、担任と通級教員、SC、巡回心理士が連携を取りながら実施できています。 相談窓口がいろいろあるということを知り、それぞれ適切な連絡につなげてほしい。	A	・引き続きお願いします。 ・相談窓口にいろいろあるということをアナウンスしていくことも大切だと思う。	児童の実態を丁寧に取り、困り感を保護者と共有しながら、SC、巡回指導教員、巡回心理士、専門機関と連携していく。		
	○ユニバーサルデザインの視点での授業改善・環境整備	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援教育研修会の実施 ・主幹教諭による学習環境の確認 月1回	85%	93%	B	・特別支援教育研修会を実施し、外部の講師を招いて特性に応じた関わりについて学んだ。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた提示物の工夫、学習環境の整備を行っている。	B	大切なことだと思っていますので、引き続きお願いします。	A	・引き続きお願いします。 ・大変なことですが、より一層頑張ってください。 ・引き続き、ユニバーサルデザインを取り入れた指導をお願いします。	特別支援教育研修会を実施し、ユニバーサルデザインの理解を深め、個に応じた指導や指導指針に活かしていく。		
	○エンカレッジルームの活用	・エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築	・協力体制の作成及び随時対応 ・空き時間の職員待機率 100%	95%	100%	A	・エンカレッジルームについて保護者に広く周知した。 ・エンカレッジルームの活用について、協力体制を構築し、連携を図ることができている。	A	現在の体制を維持し、エンカレッジルームを有効活用してほしい。	A	・エンカレッジルームの運用について教員の協力体制がうまく取れている。	・エンカレッジルームの有効利用を続けてほしい。 ・個別に対応しても別室指導は大変難しく、保護者の協力も必要だと実感しました。		
不登校・いじめ対応の充実	○不登校・いじめの未然防止並びに早期発見・早期対応	・学期に1回、いじめアンケート・いじめ関連の道徳授業の実施、研修 ・L-Gateの実施 ・SCやSSW等の外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関とつなぐ	・年間3回実施率100%・いじめ解消率100%、研修の実施 ・L-Gateを活用し、児童の心の状態の把握やトラブルの早期発見、早期対応を実施することができた。また、長期休業中にも実施する予定である。 ・不登校児童に対し、電話連絡や家庭訪問を定期的に実施した。SCやSSWと連携して、不登校傾向の児童や保護者との連携を図っている。	95%	100%	A	・1学期、いじめ関連の取組を予定通り実施することができた。1学期中に12件のいじめを認知したので、解消に向けて組織的に対応していく。 ・L-Gateを活用し、児童の心の状態の把握やトラブルの早期発見、早期対応を実施することができた。また、長期休業中にも実施する予定である。 ・不登校児童に対し、電話連絡や家庭訪問を定期的に実施した。SCやSSWと連携して、不登校傾向の児童や保護者との連携を図っている。	A	不登校もいじめも、起こる前段階で対策を考え、適切な対応をしていきたいと思います。 L-Gateの利用により、児童の心の状態を早期に把握対応できることはよかったです。 子供たちの変化を感じ取り、敏感に対応をお願いします。	A	・1学期同様、2学期もいじめ関連の取組を予定通り実施することができた。年間3回のいじめアンケートで早期発見に努め、いじめの認知後も解消に向けて指導を継続している。 ・L-Gateを活用し、児童の心の状態の把握やトラブルの早期発見、早期対応を実施することができた。また、長期休業中にも実施する予定である。 ・不登校傾向児童に対し、不登校対策委員会を中心に組織的に対応している。今後も、SCやSSW、関係機関と連携し、不登校傾向児童と保護者への寄り添いを図っていく。	L-gateによるいじめ早期発見やいじめアンケートの確実な実施、いじめの安全教育の実施等を通して、豊かな心の育成、安心して過ごせる学校にする。		
	○エンカレッジサポーターの効果的な活用	・エンカレッジサポーター事業の周知及び効果的な活用	・利用児童、利用保護者へのアンケートにて肯定的評価80%	90%	94%	A	・不登校対策コーディネーターを中心に、エンカレッジサポーター事業の周知を行い、保護者面談を経て3名が利用している。 ・児童の様子や今後の方針などについて、保護者と定期的に面談を行う予定である。	A	なにに頼ったことはないですが、もし不登校になってしまった場合に相談の役にたつことは非常にありがたいです。今後も取り組み、不登校児童がなくなるよう継続してほしい。	A	・エンカレッジサポーター事業を通して、定期的に登校することができている児童が数名いる。 ・エンカレッジサポーター事業を利用している児童の保護者と定期的な面談をして今後の方針を確認できている。	誰一人取り残さないことを意識に置いて、保護者との連携を図りながら協力を働き、教室に行けるようにしていく。		
	○安全・安心な居場所づくり	・安全指導の徹底 ・けが、事故の防止と対応	・月1回の安全指導 ・即日対応	95%	100%	A	・児童への安全指導だけでなく、学校施設的安全点検も毎月実施している。 ・けがや事故だけでなく、熱中症や落書きなど自然災害についても具体的な指導や未然防止に努めている。	A	外遊びで楽しい学校になりました。今年度の安全に感謝しています。	A	・毎月の月初めに、安全指導と安全点検を確実にしている。今年度も大きな怪我や事故がなかったことができています。 ・けがや事故の未然防止だけでなく、起きたときはすぐに保護者に連絡するなど迅速な対応を心がけている。	毎月の安全点検の実施と教職員の間で連携の意識向上(熱中症や落書き)に努めていく。		
学校(地域)社会に開かれた実践	○取組の積極的な情報発信	・PTA活動、地域行事への参加、HPによる情報公開	・保護者アンケート肯定的評価80% ・学校HPの更新回数年間500回以上	80%	88%	A	・全教員が週1回以上HPを更新することで、7月末時点で昨年までの更新回数を上回る、347回更新することができた。 ・引き続き、全教員が週1回以上HPを更新するようしていきたい。	A	先生方、お忙しい中大変だと思いますが、ありがとうございます。HPの更新は大変だと思いますが、続けてほしいと思います。	A	・ホームページアップ数769回(12月22日時点)と昨年を上回る回数更新できている。 ・保護者の肯定的評価96%	引き続き、HP更新による積極的な情報発信を行い、保護者・地域の方からの信頼を得る。		
	○地域の教育資源を活用した授業の取組	・地域等を活用した出前授業の実施 ・低学年は、地域見学の実施、授業へ活用。	・全学年出前授業を1回以上実施する ・児童自己評価「地域の行事に参加する」80% 教員自己評価「地域との連携」100%	79%	99%	B	・計画的に出前授業を実施している。2学期以降も、計画的に出前授業を実施し、地域との連携を推進し、強化していく。出前授業だけでなく地域の資源を活用した活動を取り入れていく。児童自己評価67.5% 教員自己評価75%	B	南葛西にどんな教育資源があるのか、住んでいてもあまり知りません。一緒に確認させていただきたく思います。 10/18学校公開のような取組をぜひ、継続してください。	A	・地域への関心・興味をもつ授業等の成果は素晴らしい。 ・5年生の総合学習で南葛西地域についての発表を見学しました。地域を知り、南葛西を好きになってくれたらうれしいです。 ・意外に知らない地元のことや分り、地元を愛する気持ちを育み素晴らしい取組だと思います。	2学期よりは自己評価の高まりがみられた。地域の教育資源の活用を進め、地域の一員という自覚と地域を愛する心を育む。		
	○学校関係者評価を活用した教育活動の改善	・外部アンケートの実施、学校たよりへのフィードバックの実施	・年間3回のフィードバック	85%	88%	B	・保護者からのアンケート結果は教員全員で共有し、教育活動の振り返りや改善に活用している。	B	継続して有効に利用してほしい。	A	・12月に教育活動全般に対する保護者アンケートを実施し、結果を教職員全員で共有するとともに、教育活動の振り返りや改善に活用している。また、学校の見解を学校便りでお返す予定である。	学校評議員や外部アンケートの結果を教職員で共有し、教育活動の改善に活かしていく。		
教育の特色ある展開	○たてわり班活動による異学年交流	・たてわり班による全校遠足・たてわり班遊びなどの実施	・年間8回実施 ・児童自己評価「たてわり班活動」肯定的評価90% 教員自己評価「たてわり班活動の充実」100%	91%	99%	A	・計画通りに実施することができている。 ・6年担任とたてわり担当者が連携して、事前準備や計画の見直しを行い、毎時改善ができていく。 ・6年生がリーダーシップを発揮し、積極的な姿勢で活動できている。 ・教員評価95%、児童評価80%	A	児童、教師がなくなる中で、よい経験になったと思います。 たてわり班活動は、上級生・下級生、両方とも有効だと思います。 上級生は、立場を理解し、感謝しているのも、もう少し評価は高くしてほしいかな。	A	・計画通りに実施することができている。 ・南小フェスタでは、児童職員と保護者職員との2回演劇を披露した。 ・音楽発表発表会に出演した。 ・2学年が協力して練習に励んでいる。	次年度も、高学年としての自覚向上と異学年交流のよさの気持ちにつなげ、児童の評価を上げられるようにしていく。		
	○NSBの充実	・5、6年生希望者による音楽器バンドNSBの実施	・音楽発表会に出演 ・発表の場年間3回設定	90%	97%	A	・2、3学期の発表の場に向けて計画的に活動できている。 ・6年生が主体となり、2学年で協力して練習に励んでいる。	A	発表会が楽しみです。	A	・多くの発表の場を設けることができると楽しみにもっています。	限られた時間の中で練習に励むことを通じて、音楽教育とNSBの充実につなげていく。		